

こんな
取組です

熊本県教育委員会 地域学校協働活動モデル地域指定事業(菊池教育事務所管内)
～「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の推進～

	●目指す子供の姿	●身に付けさせたい子供の力
菊池市教育委員会	自らの未来を切り拓き、持続可能な社会を創る子どもの育成	地域を理解し愛する「ふるさと感」の醸成 課題と向き合い、その解決に向かう資質・能力
学校や地域の課題	○コロナ禍の影響が大きく「停滞した活動の再構築」と「地域への普及啓発」が課題となっている ○一体的推進に向けた「行政として取組」、「地域人財の確保」、「活動事例の積み上げ」、「地域への周知・啓発」などをさらに充実させる必要がある。	

● 取組の概要・特徴や工夫

○「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的推進の更なる充実を図る

- 1 行政の連携・協働体制を強化する。
 - 教育委員会における連携・協働体制の整備
 - 地域人財、活動事例の蓄積、更新の充実(ネットワーク化)
 - 学校・地域への積極的な支援(統括推進員・指導主事等の校内研修等への参加等)
- 2 各中学校区の特徴(強み)生かした活動の充実に努める。
 - 学校運営協議会と地域学校協働本部の連携強化
 - 中学校区ごとの地域学校協働本部の体制整備とコーディネート会議の充実
 - 中学校区を中心とした普及・啓発活動の推進
 - 中学校区内の人財情報の共有化(ネットワーク化)
- 3 地域総がかりの活動を促進するイベントを開催する。
 - 地域・学校・家庭・子供・行政の五者が連携するイベント「菊池市『地域と学校の連携・協働』フォーラム」の開催

● 取組の実際



旭志中学校の学習発表会で披露した「湯舟神楽」。地域の伝統文化を子どもたちに継承することで郷土愛を育てています。



市フォーラム兼菊池管内及び山鹿市における推進実践交流会を開催。市内15小・中学校の特色のある取組を発表しました。

● 地域学校協働活動における効果・成果

○一体的な推進

アフターコロナ期に入り、これまで控えていた地域活動や学校行事などが再開され、各中学校区・各学校において特色(強み)を生かした活動が実施された。その中で、中学校区毎に情報交換や交流が増え、積極的な地域人財の活用や地域交流活動等が行われ、活動を通じた「人と人のつながり」や「地域理解」が深まり、充実した取り組みができた。

○人財育成

地域の伝統文化を継承する活動や中学校の生徒会主体の活動、学習への地域人財の参加、学校運営協議会への児童生徒の参加など、各学校が創意工夫をしながら地域の方々、学校、児童生徒が一体となった取組が進められた。その結果、子どもたちの「ふるさと感」が醸成されるとともに、子どもと大人が共に学ぶことで人財の育成、地域の活性化につながっている。

○学校や地域が抱える課題の解決

コロナ禍により、これまで開催できなかった「市地域と学校の連携・協働フォーラム」が、県の実践交流会との共催で初めて開催することができ、市内外多くの方に参加いただいた。事例発表、ポスターセッション、パネル展示により市内15小中学校の地域の特色(強み)を生かした取組を発信することができ、一定の普及啓発ができたと感じている。